

3 遺物

遺物は土器・土製品・石器・石製品が出土しています。

土器は、縄文時代後期初頭から後期前葉（約4,000年前）にかけての三十稻場式と南三十稻場式が主体であり、少量の東北系統の土器もあります。土器に付けられた文様や飾りなどから、時期や地域の特徴がわかります。煮炊きに使用した鍋（深鉢）や皿（浅鉢）のほか、注ぎ口の付いた壺（注口土器）などがあります。土製品には土偶、垂飾（ペンダント?）、耳飾、土錘などがあります。特に垂飾は村上市長割遺跡出土品とよく似ています。

石器はたくさんの種類が出土しています。石鏃は狩りに用いた矢の一部で、装着用の接着剤（アスファルト）が付いているものもあります。磨製石斧は木の伐採・加工に用いる道具で、打製石斧は土掘りや根茎類の採取に用いたとされています。磨石類と石皿はドングリなどの殻を砕いたり実を磨り潰したりするためのものと思われます。石製品では、ヒスイ製の垂飾（大珠）などがあります。

4 まとめ

上野遺跡は縄文時代後期初頭から後期前葉が主体の集落跡ですが、今回は南側の集落外を多く調査しました。集落から土石流等によって流された遺物が多量に含まれる範囲で、繰り返される堆積によって低地部分が完全に埋没していました。土の断面を見ると何十層もあり、厚いところでは3mを超える範囲もあります。また地震の痕跡（土の引き込み、断層、噴砂など）がいたるところで観察できるのも、この遺跡の特色です。通常の遺跡で見られる廃棄場の状況と異なり、遺跡及び地形の形成過程が把握でき、多くの情報が得られています。次年度以降は集落部本体が調査の中心なので、様々な成果が期待されます。



上野遺跡と長割遺跡から出土した垂飾（約1/2）

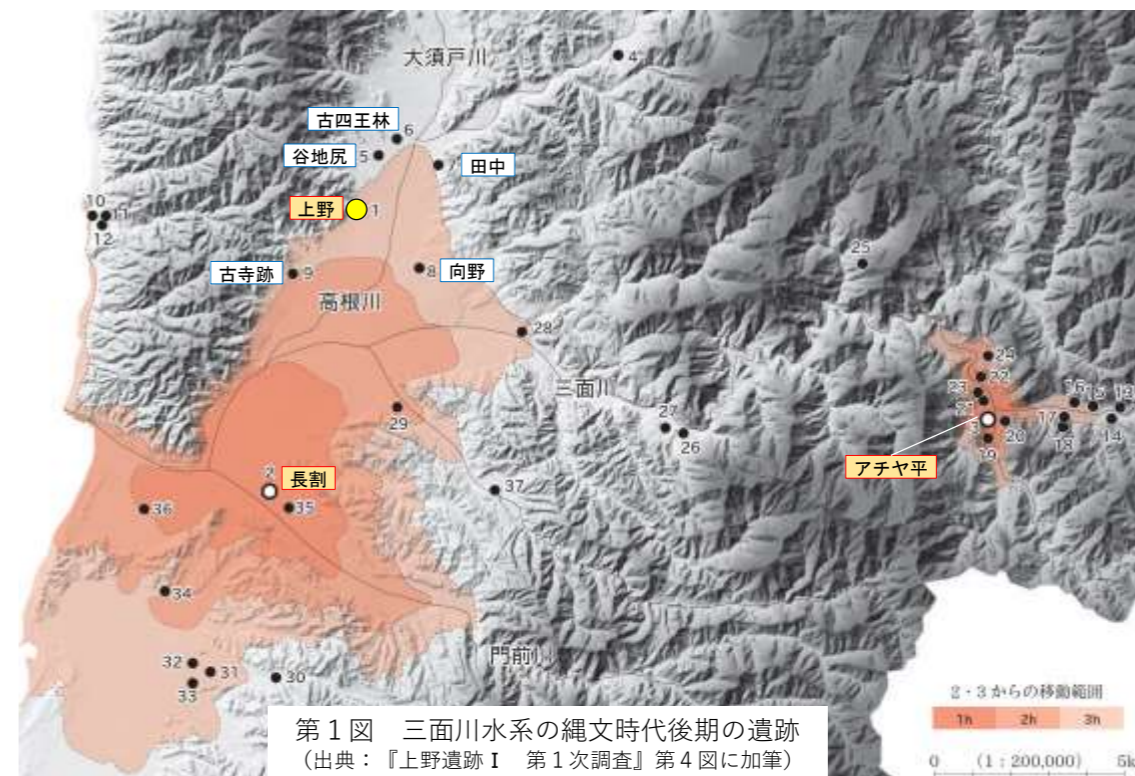
かみの 上野遺跡 現地説明会資料

令和元年11月2日（土）

国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所
新潟県教育庁文化行政課
公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

1 調査の概要 —縄文時代後期初頭から前葉にかけての集落—

- 国道7号朝日温海道路事業に伴う試掘調査は平成27（2015）年度から本格化し、上野遺跡は平成29（2017）年度から本発掘調査を実施しています。今年度の本発掘調査面積は、約6,790㎡です。
- 遺跡は高根川右岸の丘陵裾部に立地し、西から東へ緩やかに下ります。現標高は35～37m程度です。
- 遺跡は、縄文時代後期初頭から前葉にかけての集落（ムラ）の跡で、今年度は集落の一部とその南側の縁辺部（埋没した谷または河川）を調査しています。
- 遺構は、住居の石囲炉、埋設土器、土坑などがみつかっています。
- 遺物は、縄文時代の土器、土製品、石器、石製品などが多く出土しています。



第1図 三面川水系の縄文時代後期の遺跡
（出典：『上野遺跡Ⅰ 第1次調査』第4図に加筆）



1 遺構

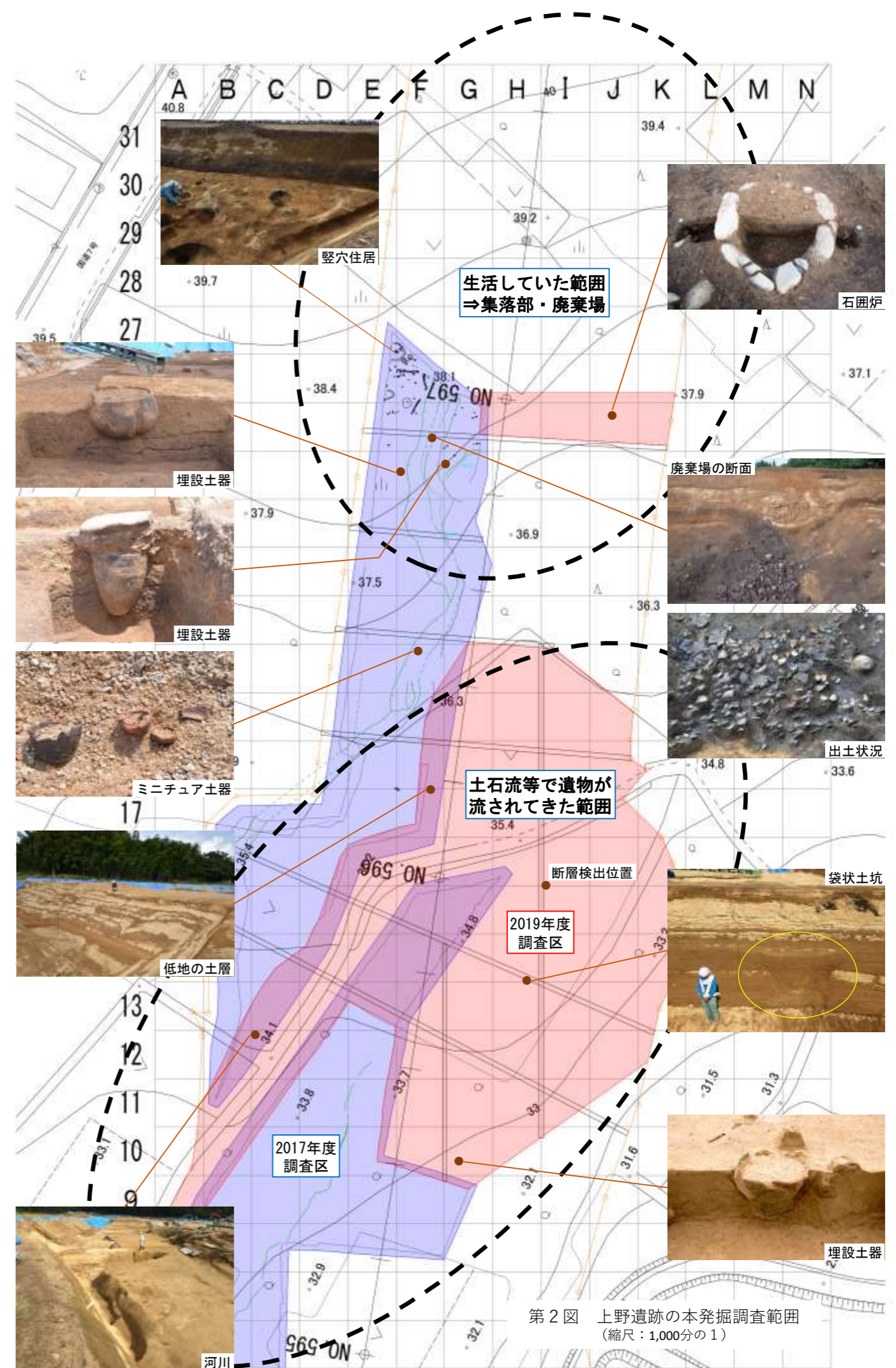
- 遺構は、建物に伴う石囲炉や柱穴、埋設土器（墓の可能性がありますが）、土坑（貯蔵用の穴など）、集石、焼土（地床炉？）、廃棄場などが見つかります。また集落の南側には、集落から流れ込んだと考える遺物を含む低地（谷または河川）があります。
- 出土した遺物の年代を調べると、縄文時代の後期初頭から前葉（約4,000年前）のものが多く、大半はその時期の遺構と考えます。また昨年度は、前期前葉（約5,800年前）の遺物も少し出土しています。（下表参照）



16 I 区の断層検出状況（東から）



14 H 区の土坑検出状況（南から）



第2図 上野遺跡の本発掘調査範囲 (縮尺：1,000分の1)